

## 2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツ学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	基礎柔道整復学・概論Ⅳ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	
担 当 教 員	福士暁也・仲村剛 岩村一成・林了大・澤 卓実	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
下肢骨折の概要、整復法、固定法、後療法について学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
期末試験評価:100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学・理論編(全国柔道整復学校協会編集), 解剖学(全国柔道整復学校協会編集)						
【参考図書】 神中整形外科, 標準整形外科, MonthlyBook オルソペディクス						
《授業外における学習方法》						
毎回の講義後, 配布プリントとノートを見直しておくこと。希望があればキャリアセンター等で情報を収集することも可能である。						
《履修に当たっての留意点》						
在学などに留まらず各種行事にて, 柔道整復師としての活動を理解することが必要となる。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	骨盤部の構造と機能を理解する		柔道整復学・理論編, 解剖学(全国柔道整復学校協会編集)	講義開始までに履修済みの内容については, 科目横断的に知識を整理しておくこと	
	各コマにおける授業予定	骨盤部の損傷-解剖と機能				
第2回	授業を通じての到達目標	骨盤骨単独骨折を理解する		柔道整復学・理論編, 解剖学(全国柔道整復学校協会編集)	履修した内容を, 参考図書などを利用し, 科目横断的に確認すること, オルソペディクス等を参照に最新知識を取り入れること。	
	各コマにおける授業予定	骨盤部の損傷-骨盤骨骨折1				
第3回	授業を通じての到達目標	骨盤骨環骨骨折を理解する		柔道整復学・理論編, 解剖学(全国柔道整復学校協会編集)	履修した内容を, 参考図書などを利用し, 科目横断的に確認すること, オルソペディクス等を参照に最新知識を取り入れること。	
	各コマにおける授業予定	骨盤部の損傷-骨盤骨骨折2				
第4回	授業を通じての到達目標	骨盤骨骨折の観血療法・保存療法を理解する		柔道整復学・理論編, 解剖学(全国柔道整復学校協会編集)	履修した内容を, 参考図書などを利用し, 科目横断的に確認すること, オルソペディクス等を参照に最新知識を取り入れること。	
	各コマにおける授業予定	骨盤部の損傷-骨盤骨骨折3				
第5回	授業を通じての到達目標	股関節部の構造と機能を理解する		柔道整復学・理論編, 解剖学(全国柔道整復学校協会編集)	履修した内容を, 参考図書などを利用し, 科目横断的に確認すること, オルソペディクス等を参照に最新知識を取り入れること。	
	各コマにおける授業予定	股関節部の損傷-解剖と機能				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	大腿骨近位端部骨折の概説を理解する	柔道整復学・理論編, 解剖学(全国柔道整復学校協会編集)	履修した内容を、参考図書などを利用し、科目横断的に確認すること、オルソペディクス等を参照に最新知識を取り入れること。
		各コマにおける授業予定	股関節部の損傷-大腿骨近位部の骨折1		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	大腿骨頸部骨折を理解する	柔道整復学・理論編, 解剖学(全国柔道整復学校協会編集)	履修した内容を、参考図書などを利用し、科目横断的に確認すること、オルソペディクス等を参照に最新知識を取り入れること。
		各コマにおける授業予定	股関節部の損傷-大腿骨近位部の骨折2		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	大腿骨転子貫通骨折・大転子・小転子単独骨折を理解する	柔道整復学・理論編, 解剖学(全国柔道整復学校協会編集)	履修した内容を、参考図書などを利用し、科目横断的に確認すること、オルソペディクス等を参照に最新知識を取り入れること。
		各コマにおける授業予定	股関節部の損傷-大腿骨近位部の骨折3		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	大腿部の解剖学的構造と特徴を理解し、大腿部に発生する損傷の病態を理解する。	柔道整復学・理論編, 解剖学(全国柔道整復学校協会編集)	履修した内容を、参考図書などを利用し、科目横断的に確認すること、オルソペディクス等を参照に最新知識を取り入れること。
		各コマにおける授業予定	大腿部の損傷-解剖と機能		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	大腿部の解剖学的構造と特徴を理解し、大腿部に発生する損傷の病態を理解する。	柔道整復学・理論編, 解剖学(全国柔道整復学校協会編集)	履修した内容を、参考図書などを利用し、科目横断的に確認すること、オルソペディクス等を参照に最新知識を取り入れること。
		各コマにおける授業予定	大腿部の損傷-大腿骨幹部の骨折1		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	大腿部の解剖学的構造と特徴を理解し、大腿部に発生する損傷の病態を理解する。	柔道整復学・理論編, 解剖学(全国柔道整復学校協会編集)	履修した内容を、参考図書などを利用し、科目横断的に確認すること、オルソペディクス等を参照に最新知識を取り入れること。
		各コマにおける授業予定	大腿部の損傷-大腿骨幹部の骨折2		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	大腿部の解剖学的構造と特徴を理解し、大腿部に発生する損傷の病態を理解する。	柔道整復学・理論編, 解剖学(全国柔道整復学校協会編集)	履修した内容を、参考図書などを利用し、科目横断的に確認すること、オルソペディクス等を参照に最新知識を取り入れること。
		各コマにおける授業予定	大腿部の損傷-大腿骨幹部の骨折3		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	膝関節部の解剖学的構造と特徴を理解し、膝関節部に発生する損傷の病態を理解する。	柔道整復学・理論編, 解剖学(全国柔道整復学校協会編集)	履修した内容を、参考図書などを利用し、科目横断的に確認すること、オルソペディクス等を参照に最新知識を取り入れること。
		各コマにおける授業予定	膝関節部の損傷-解剖と機能		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	膝関節部の解剖学的構造と特徴を理解し、膝関節部に発生する損傷の病態を理解する。	柔道整復学・理論編, 解剖学(全国柔道整復学校協会編集)	履修した内容を、参考図書などを利用し、科目横断的に確認すること、オルソペディクス等を参照に最新知識を取り入れること。
		各コマにおける授業予定	膝関節部の損傷-大腿骨遠位部の骨折		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	膝関節部の解剖学的構造と特徴を理解し、膝関節部に発生する損傷の病態を理解する。	柔道整復学・理論編, 解剖学(全国柔道整復学校協会編集)	履修した内容を、参考図書などを利用し、科目横断的に確認すること、オルソペディクス等を参照に最新知識を取り入れること。
		各コマにおける授業予定	膝関節部の損傷-下腿骨近位部の骨折		

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツ学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	基礎柔道整復学・概論Ⅳ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	
担 当 教 員	福土暁也・仲村剛 岩村一成・林了大・澤 卓実	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
下肢骨折の概要、整復法、固定法、後療法について学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
期末試験評価:100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学・理論編(全国柔道整復学校協会編集), 解剖学(全国柔道整復学校協会編集)						
【参考図書】 神中整形外科, 標準整形外科, MonthlyBook オルソペディクス						
《授業外における学習方法》						
毎回の講義後, 配布プリントとノートを見直しておくこと。希望があればキャリアセンター等で情報を収集することも可能である。						
《履修に当たっての留意点》						
在学などに留まらず各種行事にて, 柔道整復師としての活動を理解することが必要となる。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第16回	講義形式	授業を通じての到達目標	膝関節部の解剖学的構造と特徴を理解し、膝関節部に発生する損傷の病態を理解する。	柔道整復学・理論編改訂第6版	履修した内容を、参考図書などを利用し、科目横断的に確認すること、オルソペディクス等を参照に最新知識を取り入れること。	
		各コマにおける授業予定	膝関節部の損傷-膝蓋骨の骨折			
第17回	講義形式	授業を通じての到達目標	下腿部の解剖学的構造と特徴を理解し、下腿部に発生する損傷の病態を理解する。	柔道整復学・理論編改訂第6版	履修した内容を、参考図書などを利用し、科目横断的に確認すること、オルソペディクス等を参照に最新知識を取り入れること。	
		各コマにおける授業予定	下腿部の損傷-解剖と機能			
第18回	講義形式	授業を通じての到達目標	下腿部の解剖学的構造と特徴を理解し、下腿部に発生する損傷の病態を理解する。	柔道整復学・理論編改訂第6版	履修した内容を、参考図書などを利用し、科目横断的に確認すること、オルソペディクス等を参照に最新知識を取り入れること。	
		各コマにおける授業予定	下腿部の損傷-下腿骨幹部の骨折1			
第19回	講義形式	授業を通じての到達目標	下腿部の解剖学的構造と特徴を理解し、下腿部に発生する損傷の病態を理解する。	柔道整復学・理論編改訂第6版	履修した内容を、参考図書などを利用し、科目横断的に確認すること、オルソペディクス等を参照に最新知識を取り入れること。	
		各コマにおける授業予定	下腿部の損傷-下腿骨幹部の骨折2			
第20回	講義形式	授業を通じての到達目標	下腿部の解剖学的構造と特徴を理解し、下腿部に発生する損傷の病態を理解する。	柔道整復学・理論編改訂第6版	履修した内容を、参考図書などを利用し、科目横断的に確認すること、オルソペディクス等を参照に最新知識を取り入れること。	
		各コマにおける授業予定	下腿部の損傷-下腿骨幹部の骨折3			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	講義形式	授業を通じての到達目標	足関節部の解剖学的構造と特徴を理解し、足関節部に発生する損傷の病態を理解する。	柔道整復学・理論編改訂第6版	履修した内容を、参考図書などを利用し、科目横断的に確認すること、オルソペディクス等を参照に最新知識を取り入れること。
		各コマにおける授業予定	足関節部の損傷-解剖と機能		
第22回	講義形式	授業を通じての到達目標	足関節部の解剖学的構造と特徴を理解し、足関節部に発生する損傷の病態を理解する。	柔道整復学・理論編改訂第6版	履修した内容を、参考図書などを利用し、科目横断的に確認すること、オルソペディクス等を参照に最新知識を取り入れること。
		各コマにおける授業予定	足関節部の損傷-下腿骨遠位部の骨折1		
第23回	講義形式	授業を通じての到達目標	足関節部の解剖学的構造と特徴を理解し、足関節部に発生する損傷の病態を理解する。	柔道整復学・理論編改訂第6版	履修した内容を、参考図書などを利用し、科目横断的に確認すること、オルソペディクス等を参照に最新知識を取り入れること。
		各コマにおける授業予定	足関節部の損傷-下腿骨遠位部の骨折2		
第24回	講義形式	授業を通じての到達目標	足関節部の解剖学的構造と特徴を理解し、足関節部に発生する損傷の病態を理解する。	柔道整復学・理論編改訂第6版	履修した内容を、参考図書などを利用し、科目横断的に確認すること、オルソペディクス等を参照に最新知識を取り入れること。
		各コマにおける授業予定	足関節部の損傷-足根骨部の骨折1		
第25回	講義形式	授業を通じての到達目標	足関節部の解剖学的構造と特徴を理解し、足関節部に発生する損傷の病態を理解する。	柔道整復学・理論編改訂第6版	履修した内容を、参考図書などを利用し、科目横断的に確認すること、オルソペディクス等を参照に最新知識を取り入れること。
		各コマにおける授業予定	足関節部の損傷-足根骨部の骨折2		
第26回	講義形式	授業を通じての到達目標	足関節部の解剖学的構造と特徴を理解し、足関節部に発生する損傷の病態を理解する。	柔道整復学・理論編改訂第6版	履修した内容を、参考図書などを利用し、科目横断的に確認すること、オルソペディクス等を参照に最新知識を取り入れること。
		各コマにおける授業予定	足関節部の損傷-足根骨部の骨折3		
第27回	講義形式	授業を通じての到達目標	足関節部の解剖学的構造と特徴を理解し、足関節部に発生する損傷の病態を理解する。	柔道整復学・理論編改訂第6版	履修した内容を、参考図書などを利用し、科目横断的に確認すること、オルソペディクス等を参照に最新知識を取り入れること。
		各コマにおける授業予定	足関節部の損傷-足根骨部の骨折4		
第28回	講義形式	授業を通じての到達目標	足部の解剖学的構造と特徴を理解し、足部に発生する損傷の病態を理解する。	柔道整復学・理論編改訂第6版	履修した内容を、参考図書などを利用し、科目横断的に確認すること、オルソペディクス等を参照に最新知識を取り入れること。
		各コマにおける授業予定	足・趾部の損傷-解剖と機能		
第29回	講義形式	授業を通じての到達目標	足部の解剖学的構造と特徴を理解し、足部に発生する損傷の病態を理解する。	柔道整復学・理論編改訂第6版	履修した内容を、参考図書などを利用し、科目横断的に確認すること、オルソペディクス等を参照に最新知識を取り入れること。
		各コマにおける授業予定	足・趾部の損傷-中足骨の骨折		
第30回	講義形式	授業を通じての到達目標	足部の解剖学的構造と特徴を理解し、足部に発生する損傷の病態を理解する。	柔道整復学・理論編改訂第6版	履修した内容を、参考図書などを利用し、科目横断的に確認すること、オルソペディクス等を参照に最新知識を取り入れること。
		各コマにおける授業予定	足・趾部の損傷-趾骨の骨折		